

議会の外での活動もピックアップ!

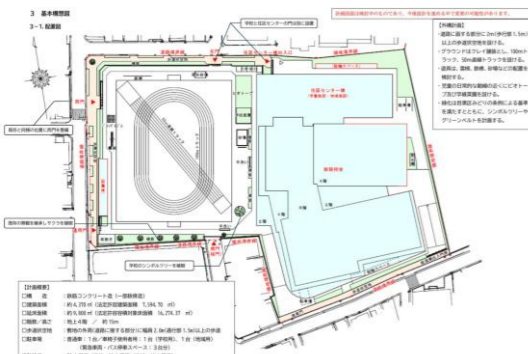
鷹番小学校建替え

に関する基本構想素案説明会を傍聴

向原小学校に続き、令和7年度には鷹番小学校の建替え工事が開始予定となっています。

2/22(土)はその基本構想素案の説明会へ。

老朽化が進む学校が多くある目黒区では、他の様々な地域でも建替えに向けた議論を進めていくこととなります。地域コミュニティの核として位置づけられることもある学校の在り方、ぜひ考えてみて下さい。



校舎や体育館は敷地の東側へ。住区センター棟が来るかどうかは、区有施設見直し方針の改定後に決める予定。

学校行脚の春

小中学校の卒業式、統合校の閉校式に参列



3/15(土)~16(日)の2日間は文教・子ども委員会の一員として、学校統合が控えた第七中、九中、八中、十一中の閉校式へ。

鷹番小の建替えに向けた説明会や小中学校の卒業式も合わせると、今月はぜひ多くの学校を訪れることになりました。

閉校となる4校はいずれも昭和22年設立で、78年の歴史に幕を閉じることとなります。地域に愛されていたことを感じさせるひと時でもありました。新校舎の完成まではもうしばらくかかりますが、同じように地域から愛され続ける学校となるように委員会での議論を尽くしてきましたつもりです。



ようこそ! デフアスリート デフリンピックに向けた機運醸成イベント

今年11月から東京で開催されるきこえない方(ろう者)の国際スポーツ競技大会催に向け、3/16(日)に区役所大会議室にて啓発イベントが行われました。



実は1964年東京五輪の開会式会場。

実はパラリンピックやスペシャルオリンピックスよりも長い歴史を持ちながらも、日本での開催は今回初。世界から3,000人のろう者が集まり、駒沢オリンピック公園でもバレーボールやハンドボール、陸上競技が行われる予定です。

私は残念ながら大会期間中のボランティアは抽選漏れとなりましたが、開催を楽しみにしています。

あとかき

区議会議員補欠選挙での再選からもうすぐ1年。1期目の経験もあるはずなのに、ずいぶん長く感じられた1年でした。普段の区政レポートは予算の都合で地域を限定して配布しておりますが、今回はいつもとは違う方法も活用してみました。バックナンバーが気になる方はぜひ、末尾のURLまたはQRコードからご覧ください。

また、1月には5回目となる目黒区手話通訳登録試験へも挑戦。昨年は最終試験である面接まで進んだものの、今年は二次試験(聞き取った日本語を手話に訳す)で落ちてしまいました。とは言え今年は手話言語条例の制定もあり、議会で「一芸は身を助ける」という言葉を思い出す場面もありました。特に今年は20人余りの受験者の中で合格者が1人という難関でしたが、引続き諦めずに勉強しています。

<https://shohei.tokyo/shiryu>



キャベツひと玉の値段に敏感であいたい

目黒区議会議員 橋本しょうへい 区政レポート

Vol. 31
2025.3.31発行



〒153-8573
目黒区上目黒2-19-15 5階
目黒区議会立憲民主党控室
Tel 080-5090-2560
Mail Info@shohei.tokyo

来年度予算や手話言語条例などを可決 今回の目黒区議会定例会では、手話を交えての質問も

2/17(月)~3/21(金)に令和7年第1回定例会が開催され、来年度予算や今年度の補正予算のほか、目黒区手話言語条例やハラスメント防止条例など、33の議案を可決しました。ここではいくつかの議案に絞ってご報告していきます。なお、予算特別委員会での質問は裏面に要旨を掲載しています。



本来の意図に合わせて、意識した部分も。

手話言語条例

区政レポートVol.28にも掲載したとおり、手話を言語として認める内容の条例は東京都23区の中で目黒区が最後。内容も完全に満足できる内容ではないものの、デフリンピック前に可決したことにはひとまず安堵。

私が所属する常任委員会とは異なる委員会での議論でした。条例案は情報保障についての記載が災害時の対応に限定されていますが、どのような意図があるのか、またどのように情報保障の質を担保していくのか、といった質問は立憲民主党の同僚である後藤幸子区議に託しました。

来年度予算は一般会計で1,423億円

詳細については裏面をご覧ください。特に4款(かん)の健康福祉費では手話言語条例の制定に合わせて、普及啓発について手話も交えて質問。ただ日本語を読み上げながら語順が違う言語も同時に表出するのは難しく、ろう(聾)者に伝わる手話表現ができたという自信が持てません...。気になる方は議会中継の録画をご笑覧下さい。

https://smart.discussvision.net/smart/tenant/meguro/WebView/rd/council_1.html



前例なき修正案 ハラスメント防止条例

目黒区でも職員、管理職、議員の間でのハラスメント対策を行うべく、条例制定へ。ただ行政側が提出した案の実効性に疑問を持ったことから、私たちの会派からは修正案を提出。議決に際しての討論では他の会派から「修正案の提出によりいたずらに委員会を混乱させた」と名指して指弾されました。

必要に応じて修正議案を出すという権限を議員が自ら否定したようにも受取られたので、驚き的一幕でした。

目黒区議会の今後の主な日程

4月9日(水)	企画総務委員会	10時~
	生活福祉委員会	10時~
	都市環境委員会	10時~
	文教・子ども委員会	10時~
4月11日(金)	特別委員会	10時~
	特別委員会	10時~
4月25日(金)	企画総務委員会	10時~
	生活福祉委員会	10時~
	都市環境委員会	10時~
	文教・子ども委員会	10時~
5月14日(水)	特別委員会	10時~
	特別委員会	10時~
5月23日(金)	特別委員会	10時~
5月24日(木)	本会議(臨時会)	13時~

今回も一般質問に登壇

避難所の「スフィア基準」、カスハラ対策

2/19(水)一般質問で尋ねたのは①避難所のスフィア基準、②都のカスハラ防止条例への対応の2点。

①の「スフィア基準」は難民キャンプや災害対応などで死者を出さないように定められた国際的な基準ですが、日本の多くの避難所ではこの基準を満たせず。昨年末に石破首相が能登半島の被災地にこの基準を満たすよう指示したことから、他の複数の議員も同じテーマで質問をしていました。

②については、4月から東京都の「カスタマーハラスメント防止条例」が施行されることから、どのように対策するかを尋ねました。実はカスハラ対策は会社員としてダイエーで働いていた時からの願いでもありました。区の対策の進捗は今後も見守っていきます。

立憲民主党目黒区議会議員 橋本しょうへい プロフィール

1989(平成元)年6月6日神奈川県生まれ、埼玉県深谷市そだち 埼玉県立熊谷高等学校、明治大学卒(株)ダイエー、手塚よしお秘書を経て2019年初当選、2024年区議補選から2期目。双子の兄弟。
<所属>文教・子ども委員会、施設更新・DX等調査特別委員会、住宅政策審議会 など
<趣味>空手(和道、松濤館)、スキー、食べ歩き <特技>手話 <好きな言葉>温厚篤実、一意専心
<好きなもの>りんご、みかん、麻婆豆腐、クラフトビール <尊敬する人物>渋沢栄一、後藤新平

予算特別委員会 質問内容の要旨はこちら

令和7年度の目黒区一般会計予算は1,423億円、特別会計も併せると2,004億円余り。勉強や調整を重ねた末に、7日間をかけての審議。ここでは私からの質問の要旨をお伝えしていきます。なお今回は将来世代に私たちが何を残せるかという視点を中心に据え、持ち時間の多くをまちづくりに充てました。実際の質問内容や答弁内容が気になる方は、議会中継または目黒区議会議事録をご確認ください。

Q1 総括質疑(区政全般に関わる内容)

(老朽化が進む区有施設の建替えには膨大な費用をこれから確保する必要があるのに)事業スクラップの金額についての目安はなく、来年度予算のスクラップも7,000万円に留まる。



区民センターの件で、区有施設の建替えに膨大な費用が掛かると改めて実感した。

事業廃止の困難さが垣間見えるが、残り2年の任期の中で区長はどのように関わるのか。また来年度から再来年度は区有施設見直しの機会。どう捉えているか。

Q2 スポーツ推進計画

計画改定の中で、区民に向けての意見募集の機会はいつか。またスポーツ推進計画改定後に区有施設見直し方針の改定作業が控えているが、ハード面での制約が多いスポーツもある中で不都合は生じないか。

Q3 手話の普及・啓発

手話の普及・啓発を行うのであれば、今まで手話に興味を持たなかった人に周知してする機会を作るためにどのような手を打っていくのか。また、理解促進のための現状把握・数値目標について区はどのように認識しているか。

Q4 耐震化促進

例年、予算を使い切れないのが民間建築物の耐震化。相談をして頂いた方をどのように実際の改修工事や建替えに繋げていくのか。



再開発により安全性を一気に高める手法もあるが、調整は大変。

また、建替え費用の助成については世代を越えて住み続ける世帯の方々にもさらにアプローチしてはどうか。

Q5 防災環境向上地区

新たに祐天寺1丁目及び上目黒4丁目が東京都の「防災環境向上地区」に指定される見込みで、防災生活道路・公園などの公共施設の整備、老朽建築物の建替えに都の助成金が活用できることになる。区はどのような方向性で対策を進めていくのか。

Q6 自由が丘駅周辺地区のまちづくり

(令和11年度までに事業費総額224億円、目黒区単独の財源でも67億円を要するが)実施計画での数値目標は適切か。



まちづくりには再開発以外の視点も。

「ウォーカブルなまちづくり」本来の目的に即した目標を立られないか。またはそうした指標を用いて進捗を適宜確認してはいかがか。

Q7 道路・橋梁とウォーカブル

老朽化が進む橋梁の整備・修繕は間に合うのか。また、自動車のための設備として整備・修繕を続けることは「ウォーカブルな街づくり」との整合性が取れているのか。その視点で、「道路の新設・拡幅」の予算はどのような用途なのかも併せて伺う。



議会の合間には、各種の政策についても学びました

大都市での災害対策 首都直下型地震、起きたら家には帰れない

Vol.30での報告漏れですが、1/21(火)に東京23区の区議会議員を対象にした勉強会が飯田橋の特別区政会館で行われました。テーマは特別区における災害対策、講師は都市防災が専門の廣井悠教授でした。

2011年の東日本大震災で話題になった帰宅困難者、家に帰る時に苦労した記憶がある方も多いかとは思いますが、それでも当時の東京都区部では最大震度5強程度。倒壊や大規模火災がなかったから帰宅できたものの、首都直下型地震ではこうした障害が無かったとしても、ソウルの梨泰院での群衆事故と同等の密度で人が集まる場所が都心の各所で発生する可能性があります。

都心にいる時に発災したらすぐには帰らないことが大切ですが、無理に帰らずに済むには職場での備蓄や避難所のチェック、家族との連絡手段の確認が必要です。

目黒区でも区内で発生した帰宅困難者の収容が可能な場所の確保を進めていますが、そもそも区民が勤務先を含めた外出先で被災した場合の対策は盲点でした。どのような啓発ができるかも含めて、対策を考えていきたいと思います。



東京圏の危険度は世界一！ていきたいです。

母語は手話!! 明晴学園 特区制度を活用した幼少中一貫校



1/31(金)、品川区八潮にある明晴学園を視察。ろう学校は都内で他にもいくつかありますが、手話を母語としている学校は全国でここだけ。区議になる前から興味を持っておりましたが、6年を経てその機会を得ることができました。

私たちが外国語を学ぶにはまず母国語である日本語の能力が必要ですが、この児童・生徒はまず手話で考える力を付け、その上で日本語の読み書きを学ぶ、という流れになります。

デフリンピックを控えた中で聴覚障害について学ぶことが一番の目的でしたが、目黒区では手話言語条例の制定が控えていたこともあり、一通りの説明を受けた後には個別にろう(聾)の副校長に個別に質問を重ねました。

うっかり視察メンバーの集合写真に写り損ねていたようですが、非常に意義のある時間を過ごさせて頂きました。



手話を話せぬ健聴者が情報弱者になる場。障害とは何ぞや。

視察の受け入れをして頂いた明晴学園の皆さんと、機会を作ってくれた他区の立憲民主党の仲間にも感謝!

児童相談所の体制どうする? 港区をヒントに考える

3/24(月)、港区立の児童相談所(児相)が併設されている港区子ども家庭センターへ。東京23区では政令指定都市などと同様に区が独自で児相を作ることもできますが、目黒区は都立の児相のままで行くことを選択。



近隣他区の立憲民主党の区議(元職含む)も一緒に。

なくなっています。目黒区で起きた2018年の虐待死事件では都児相との連携不足が反省点のひとつだったとされる中で、都に頼らず自前で児相を設立した9つの区と同様のレベルで連携ができるようにするにはどうすればいいのだろうか。居並ぶ他区の議員に遠慮することなく、同僚の金井ひろし区議、後藤幸子区議と共に担当職員の皆さまを質問攻め。9月の決算特別委員会で令和6年度を振り返る際に、目黒区の方向性について質していきます。